

G・ルイスと故郷で

ルイ・アームストロングや
ジョージ・ルイスを生み、素
朴なトプディッシュナルジャズ
をはぐくんだニューオーリン
ズでの滞在は、三泊四日にす
ぎなかつたが、連夜バーボン
・ストリートに通って、伝統
を守り続ける黒人ジャズメン

△12▽



たちの演奏に耳を傾けなが
ら、彼らの温かく飾り気のない人間味に触れることのできたのは何よりの喜びだった。中でもジョージ・ルイスとは、翌六五年に今一度来日して再会できたものの、やがて病に倒れ、六八年にはついにこの世を去って、二度とあのブル

ースに託した美しくも、もの哀かなしいクラリネットの血のじむ呼びに、じかに接することができなくなってしまうだけに、一度だけでも

黒人ジャズメンたちの 温かい人間味に触れる

その故郷で旧交を温めることができたに幸せだった。と(二)で、あの「ディキシ



プリザーベーションホールを訪れたドクター内田

だが地味で学舌肌のポルトン氏とは対照的に、長年にわたって貴重な録音をとり続け、「ニューオーリンズジャズ」といつアメリカの大切な遺産を広く世界に再認識せよ

オリンズを去る前日、僕を自宅に招いてくれた。夜もなると、帽子を手にして、例のお「こゝろ」を集める

日本から来たお客さんのために呼んでおいたというジャズ料理を賞味

フランス料理を賞味するのには、やっぱりジャズの世界で生きるのには大変なんだなあ

愛すべき黒人たち

シオンホール」の名を高めて、ととう観光名所にまでしてしまつたのが、敏腕ヤツフェ氏だった。

など単純に感じてしまったのだけれど、いざお宅にお邪魔して、そのあまりにも立派

カクテルパーティーのあと、連れて行かれたのは「ジャズミュージアム」(ジャズ博物館

でも、あの愛すべき黒い肌の

ヤツフェ氏の豪邸へ

そのヤツフェ氏も、ニュー

ら二つ、好きなエピソード

だ。 (内田 修)